



年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会会長
吉田 久夫

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は 2022 北京冬季オリンピック、パラリンピックが開催され、本県出身の小林陵侷選手が金銀のメダルを獲得するなど大活躍し、県民に夢と希望を与えてくれました。また、2022FIFA ワールドカップにおいては、日本代表が予選で強豪国に相次いで逆転勝利して決勝トーナメントに進み、国民を熱狂させました。一方で、2月にロシアがウクライナに侵攻したことにより現地では多くの犠牲者が出ているほか、石油製品等を始めとする価格上昇と円の下落も相まって、インフレが急激に進み、日本経済の貿易収支も大幅な赤字を記録するなど激変の年となりました。また、新型コロナウイルスの猛威は衰えず12月には県内で過去最高の2,500人越えの感染者数になるなど、依然として社会生活に及ぼす影響が続いているところです。

さて、東日本大震災津波からは11年余りが経過し、三陸沿岸道路を始めとする復興道路、復興支援道路は全線開通し、防潮堤等の海岸保全施設の整備もほぼ完成したところです。平成28年台風10号及び令和元年東日本台風災害からの復旧復興についても、鋭意整備が進められ最終段階にきているところです。また、昨年7月から8月の大雨により県北地区を中心に災害が発生したことに対して、当協会も協力し年内に災害査定が終了したところです。

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策は、老朽化したインフラの補修・補強により施設を適切に維持管理するために必要な事業となっていますが、今後は予防保全型のインフラメンテナンスへと転換が進むものと思われ、公共事業予算が縮減する中、本県においても大きな事業となりつつあります。

また、建設現場の生産性向上に向けたi-Constructionの推進においては、BIM/CIMによる3次元測量設計の本格実施が目前となってきていますので、当協会としても積極的な取り組みを図り推進していくほか、さらなる技術力向上に努め、受注者の責務を全うすべく尽力し、地域住民の安全・安心な暮らしの確保に向けて組織を挙げて取り組む所存です。

当協会としましては、発注者の良きパートナーとなれるよう、経営基盤の強化、安定的な経営とワーク・ライフ・バランスの実現に取組み、従業員の継続雇用を図り、担い手の確保・育成に全力で努めてまいります。

事業量が減少する中、インフラメンテナンス業務は今後の事業の柱となるものとなって

いますが、若い技術者に魅力ややりがい感じてもらえる仕事・業界でなければならないと感じています。次の時代のために人材を採用・育成し、技術の継承を進めていくことが業界にとって不可欠と認識をしているところです。関係の皆様には今後とも一層のご指導ご支援をお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。